

東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2011年11月11

篤信

親愛なるムスリの様

篤信とは、信者がアッラーの命令や禁止事項に従うという点で注意深く振舞うこと、生活のあらゆる場面で慎重さと均衡を保ち、教えの定めるところに敏感であることを意味します。篤信を備えた人々をそうでない人々から区別する重要な特性は、クルアーンを道案内としてその道を行くこと、災い、苦難に対し忍耐すること、アッラーが定められ、出現している出来事を満足して受け入れること、アッラーの与えられた恵みに感謝することです。信者はアッラーにイフラスを伴って崇拜行為を行うため、どこにも逸脱することなくまっすぐに導きの道を進み、善行やアッラーのご満悦を得ることを望み、よい行い、誠実な行いをするのが義務付けられています。アッラーのご命令を実践する人、禁止されたことを犯すことを恐れ避ける人、アッラーに対し敬意を抱く人、自分に分け与えられた糧が少なかったとしてもそれを十分とする人、そして他者の財産に目をつけない人、欲張り、食欲ではない人、来世で神の報奨を得るために現世で必要な備えを行う人にふさわしいもつとも素晴らしい特質は篤信です。アッラーはクルアーンで篤信を備えた人々について次のように仰せられています。

「あなたがたの主の御赦しを得るため、競いなさい。天と地程の広い楽園に（入るために）。それは主を畏れる者のために、準備されている。」

（イムラーン家章133節）

全ての預言者はその社会の人々を篤信へと導きました。なぜなら心のうちに篤信が根付いた人々は、自らや周囲に害をもたらさ



得る悪い行いから遠ざかるからです。禁じられたものに手を伸ばすことはないのです。篤信は人と悪行の間の妨げとなります。人を善へ、よい行いへ、誠実な振舞いへと導きます。人の価値はアッラーの位階において篤信の度合いによるものです。アッラーはクルアーンで次のように仰せられています。「人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これ

はあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通曉なされる。」

（部屋章第13節）

結果として心がアッラーへと向かうという観点から必要不可欠な要素である篤信は、アッラーの位階においてその心にある知識、恐れ、敬意という感情に結びついて、人が、アッラーの定められた範疇においてその我欲を現世と来世におけるあらゆる危険から守る行為です。心は我欲を守る篤信の知を備えています。この知はアッラーに対し責任を持った認識のうちに行なわれる振舞いによって発展し、またその逆の振舞いによって萎縮します。人の魂の救いや損失はこれに結びついているのです。篤信を備えた人々は、あらゆる危険に対する唯一の守りとしてアッラーを認識しているため、ただアッラーに庇護を求め、ただアッラーのしもべとなるのです。